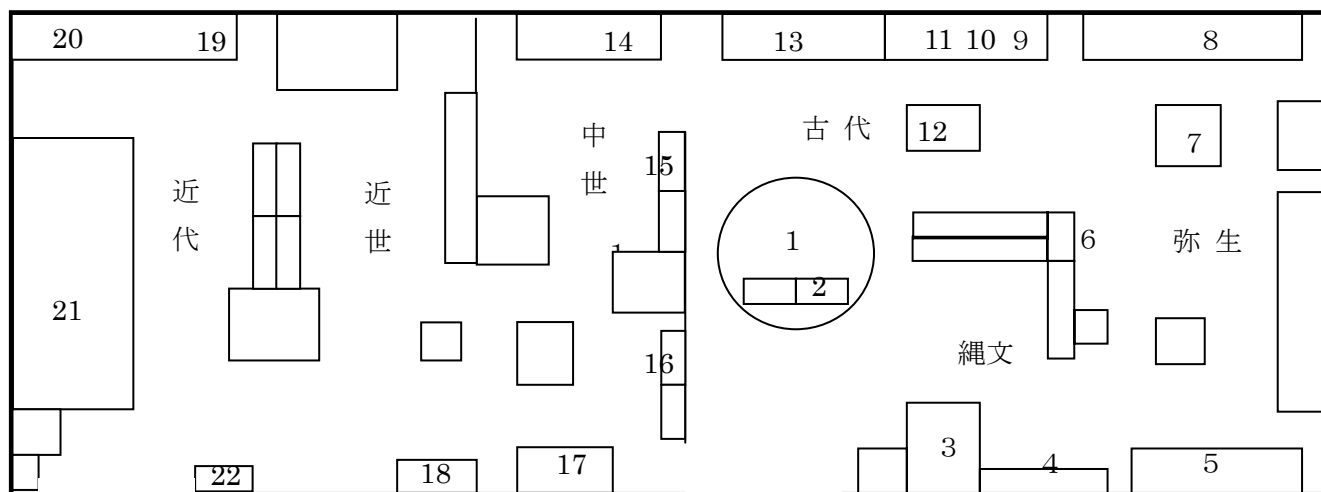


じょうせつてんじ 常設展示の見どころ



1 ナウマン象 ぞう 浜松は象が歩いていた！



- 西区佐浜町で発見され、骨格標本のもとになった。さしまちょう こっかくひょうほん
- 新種しんしゆの象で、ドイツ人のナウマン博士の名前にちなんで「ナウマン象」となった。
- これにより、日本は昔中国大陸と陸続きちゆうごくたいりく りくつづだったことがわかる。

2 浜北人 ほんしゆさいこ 本州最古の人骨！

- 浜北区根堅の石灰岩の割れ目から発見された。本州最古のもの。ねがた ほんしゆさいこ
- 展示されているのは、今から1万4千年前の女性の骨である。骨の大きさから、身長は140cmくらいと推測される。じよせい すいそく



3 埋葬された縄文人 じようもんじん 4000年前の人骨

- 70歳さいくらいの男性の人骨。手足を曲げて、土の中に葬ほうむられているので「屈葬（くつそう）」といわれている。
- このような形で埋められた理由は、「生まれたときの姿すがたにして土に返すため」「魂たましいが出てきて悪さをしないようにするため」「うずくまって寝る習慣しゆうかんがあったから」などの説がある。
- このように、4000年前の人骨がとけず、きれいな状態で残っているのは、貝塚かいづかにたくさんの貝がらがあったおかげである。
- この人物は、手の上に「貝輪かいわ」が乗せられていたため、むらのリーダーだったと考えられている。



4 蜆塚の貝塚 けんないさいだい 県内最大・市内唯一の縄文時代の貝塚！



- 「貝塚」は、昔のごみ捨て場のことであり、およそ1000年ほどかかって積み上げた。
- 貝がらの大きさを見ると、今よりも大きなものが多く、豊かな食生活を送っていたことがわかる。ゆた
- 貝がらからその時代の気候きこうや取れていたものについて知ることができる。
- 貝がらのほかにも捨てられたものを、探すことができる。
- 「蜆塚」という地名は、ヤマトシジミの貝がらがたくさん見つかったことに由来している。

5 石のやじりがささった「シカの骨」

もりのあとがある「魚の骨」



シカの骨



魚の骨

日本初！狩や漁の証拠が見つかる！

- 矢の先につけた「やじり」が、シカの「こしの骨」を貫通している。当時の弓矢の強さが分かる。
- 「やじり」のささっているまわりの骨がもり上がっているため、このシカは、一度は捕獲されなかった。後に捕らえられたため、貝塚に骨が残っていると考えられる。
- 魚の骨のところにある「3つの穴」ともりの先端が一致することから、ヤスをたばねて魚をついたことがわかる。

6、7 銅鐸

有数の銅鐸発見都市！



- 浜松市は、全国有数の銅鐸発見場所（25箇所）である。
- 最初、銅鐸は音を出す楽器として使われていたと考えられ、豊作を願う「お祭り」に使われたと考えられている。しかし、大きくなるにつれ、楽器ではなく、祭りの際に置物として使われたと考えられている。
- 新品のときは、金色に輝いていた。
- 銅鐸は、鋳型を作り、その隙間にとかした銅を流し込んで作った。薄くて精巧なものを作る技術力の高さには驚かされる。

8 木のよろい

日本最古の木のよろい！



- 伊場遺跡から出土したもので、およそ1800年前のもの。
- やなぎの木をていねいに彫刻し、赤と黒のうるしが塗られている。
- 日本全国をさがしてみても、これほど精巧なよろいは見つかっていない。
- このころから、土地をめぐる争いがよく行われていた。

このよろいは、うるしが塗られ、さまざまな装飾がされているので、祭りや儀式の際に使われたと考えられている。

9 銅鏡

画文帯神獣鏡は静岡県指定文化財の鏡！



画文帯神獣鏡



- 北区引佐町馬場平古墳群から見つかった「画文帯神獣鏡」。およそ1600年前のものである。
- 鏡の周りには、帯状に模様がついていて、中には、神と神に仕える獣（龍と亀）が交互に描かれている。模様がある方が裏側で、表側はみがき上げられていた。
- 現在はさびて青緑色となっているが、作られたときは、金色に輝いていた。
- 宝物として大切に扱われていた。自分の姿を見るためではなく、神様（太陽など）を映そうとしていた。
- 浜北区内野の赤門上古墳で発見された三角縁神獣鏡は、鏡の縁が三角形になっていることから名づけられている。これと同じ鋳型で作られた銅鏡が、全国各地で発見されている。

10 人物埴輪

全国からも注目されている人物埴輪！



- 土器をささげ持っている人物を表している人物埴輪。
- 北区都田町の郷ヶ平古墳から見つかったもので、およそ1600年前のもの。
- 「古墳」とは豪族（権力者）の大きなお墓で、三方原の東側や都田周辺にたくさん造られた。古墳の周りには、動物や家、舟などの形をした埴輪が立てられていた。
- 残念ながら、頭の部分は見つかっていない。
- 浜松周辺では人物埴輪はあまり見つかっていないため、大変貴重なものである。

11 鉄のかぶと



権力者のシンボル！

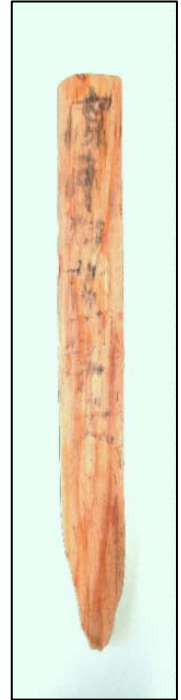
- 東区有玉西町の千人塚古墳で見つかった「鉄でできたかぶと」。これ以外にも、大刀や剣、やり先などの戦いの道具が見つかった。これらの鉄でできたものは、権力者しかもつことができなかった。
- この時代では、土地の権力者が強い軍事力によって人びとの支配を強めていったことが分かる。

12 金銀装大刀



今でも光り輝く金装！

- 中区森田町鳥居松遺跡で見つかった。
- 6世紀ごろ、朝鮮半島で作られ日本に伝えられたものと見られている。
- つかの上部は金装。その下部の銀は黒く変色している。刀身は鉄製である。



13 木簡

浜松最古の文字！

- 木の札に文字を書き込んだものを「木簡」という。
- 伊場遺跡から出土した木簡には、税として納められた布につけられたものや、帳簿として使われたものがある。
- 木簡のよいところは、使用後に表面をけずれば、何度でも利用できることである。
- 1300年前の文字を読むことができ、当時の地名や人名が残る貴重な資料である。
- 浜松の地名のもとであると考えられている「濱津」という文字が見えているものがある。

14 埋納銭



人々の信仰は変わらず！

- 北区三ヶ日町中の甲遺跡より出土。佐久米神明宮の反対側の谷に埋められていた。
- 古瀬戸製の壺の四耳壺（しじこ）の中に古銭が入れられて埋められていた。
- 銭貨はさまざまな品物と交換できるため霊力があると考えられていた。

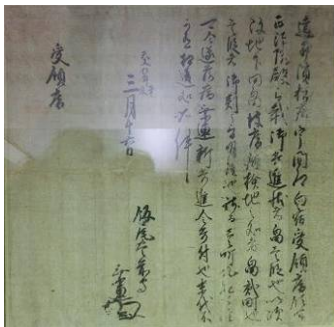
15 かわらけ



人々の往来がさかんだった浜松の宿！

- 鎌倉～戦国時代にかけてのかわらけ（皿）
- 今川氏が遠江（とおとうみ）支配したとき、配下の飯尾（いのお）氏を引馬（ひくま）城に配した。
- 頭陀寺に飯尾氏配下の松下氏がいた。その居城跡からたくさんのかわらけが出土した。
- 松下氏には、織田信長につかえる前の豊臣秀吉が奉公したという言い伝えがある。

16 寿量院文書



中世遠州地方の政治の推移を示す（寿量院（向宿）より寄託）

- 室町時代末期に、浜松地域を治めていた三河の吉良氏が、同院の地藏堂や畑一反を寄付するとした寄進状や、それが寺領であると認めた文書など、6通を一巻に装丁したもの。
- 6通のうち1通は吉良氏に代わりこの地域の支配者となった今川氏の武將飯尾乗連が改めて寺領他を認めたものである。中には、浜松庄宇間の郷（現在の向宿・領家・瓜内）にあった同院の寺領が一町九反が余分だが、それも認めると記されている。
- 太閤検地以前に今川氏が検地を実施していたことを示す貴重な資料。

17 徳川家康の金子請取覚書



- ・ 徳川家康が遠州・駿河・三河・甲斐・信濃5カ国を領有していた時代の自筆の文書。
- ・ 家康から、甲斐の国の家臣、日下部定好・成瀬正一に渡された金子請取覚書。
- ・ 押印の壺型の印は、家康の文書中、2番目に古いものである。

18 各種小判展示



江戸時代のお金を見るなら、ここ！（静岡銀行より寄贈）

- ・ 徳川家康は、1601年に金・銀・銭貨からなる貨幣制度を作った。
- ・ 金は1両=4分=16朱と決まっていたが、銀は重さにより価値が決まっていた。江戸は金、大阪は銀が中心に使われていたため、金と銀の価値を決めて取引する両替商がいた。
- ・ 小判1両の価値は、お米をもとに計算すると、小判1両=米1石（約150kg）なので、約63,000円くらい。
- ・ それぞれの小判は、大きさや重さ、金が入っている割合も違う。

19 遠州報国隊



明治維新の重要な役割を担った人々！

- ・ 江戸時代末期から明治初期の戊辰戦争のとき、神官が中心となって官軍に協力した有志隊の一つ。その隊員が着用した陣笠と陣羽織。
- ・ 遠州報国隊は、大総督宮の有栖川熾仁親王の護衛をして江戸に行き、その後、上野での彰義隊討伐に参加した。
- ・ 明治元年に解散命令が出されたとき、東京に残った隊員の中には、招魂社（現在の靖国神社）の創立に尽力した人物や二代目宮司となった人物がいる。

20 太平洋戦争の遺物



空襲で大きな被害を受けた浜松

- ・ 明治以降、浜松に軍隊が配備されていった。昭和12年には三方原飛行場が設置され、40以上の部隊が配置された。太平洋戦争時には、数多くの軍需工場や国鉄浜松工場が置かれ、軍事都市となった。このため、空襲や艦砲射撃の標的となった。
- ・ 東京や名古屋の空襲ルートの途中にあったため、東京や名古屋の空襲の後、残った爆弾を捨てていくように命令が出されていた。
- ・ 昭和19年（1944）12月以降、浜松は27回の空襲が行われた。

21 昔の道具展示



子ども時代に見かけた道具があるかも！

- ・ 市民学芸員の方や博物館実習生とともに、内容を考えて展示しています。
- ・ 右側が50～100年くらい前、左側が30～50年ほど前のもの。日常生活で使われていた道具を展示している。

22 N. YAMAHA アップライトピアノR型14号 浜松のピアノ製作の歴史を物語る1台

- ・ 日本楽器製造株式会社の創設者 山葉寅楠の弟子で養子でもある山葉直吉が設立した山葉ピアノ研究所によって作られた。
- ・ 直吉が弟子の大橋幡岩らとともに、自らが納得できるピアノづくりをめざして製作されたものが「N. YAMAHA」。
- ・ 展示品は、昭和4年の第1号から昭和7年の第34号まで製作されたうちの14番目のもの。
- ・ 発売当初の価格は、1,250円（ヤマハピアノは550円）。
- ・ ドイツ人技師シュレーゲルからも賞賛されるほど高い品質を誇り、作る先から買い手がつくほどだった。

